

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

開催日時		令和3年8月5日(木)	開会 14:00 閉会 16:00
開催場所		市庁舎 4階 401 会議室	
出席者	構成員	小浜市長 松崎 晃 治 小浜市教育委員会 教育長 窪田 光宏・同職務代理者 山崎 正博・委員 上田 俊彦・委員 村上 郁子 委員 桂田理津子	
	事務局	【教育委員会】 教育部長 檀野清隆・教育部次長（生涯学習スポーツ課長） 澤谷 欣弘 ・教育総務課GL（古跡修聡・福田雅一）・教育総務課（上林一基・古田宗吉）	
<p>1 開会</p> <p>事務局 ただ今から令和3年度第1回小浜市総合教育会議を開会します。 なお、本日の会議終了は、16時00分を予定していますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>2 協議</p> <p>事務局 それでは、早速、協議事項に入らせていただきます。 議長につきましては、本会議の設置者であります松崎市長にお願いいたします。</p> <p>市長 まず、開会にあたりまして一言挨拶させていただきます。 本日は、総合教育会議を招集させていただきましたところ、教育委員の皆様には公私ご多忙のなかお集まりいただき、誠にありがとうございます。 日頃は、本市教育行政の推進に多大なご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。 さて、本日は令和3年度第1回総合教育会議として、本市教育行政の課題2点を協議することとなっています。 協議事項の一つ目は、児童生徒1人1台端末を活用した学習の現状と今後の方向性について、 二つ目は、学校教育の諸事業に対する支援体制の整備について、でございます。 また協議事項以外のことでも、教育委員の皆さまと活発に意見を交わし、本市の教育行政がより良いものとなるよう努めてまいりますので、ご協力</p>			

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

のほどよろしくお願いいたします。

市長

それでは、会議次第に基づき、議事を進めます。

まず、協議事項1 児童生徒1人1台端末を活用した学習の現状と今後の方向性について、事務局から説明をお願いします。

<教育総務課説明> 実際に学校で使用している端末を使って説明

市長

ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきまして意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。

山崎職務代理者

1学期中に破損した端末はどの程度ありましたか。

事務局

1学期中に2台の端末が破損しています。破損の内容は、2台ともに液晶画面に亀裂が入ったというものです。これはいずれも、カメラモードで使用しているときに、誤って端末を落としてしまったというものです。

山崎職務代理者

学校では端末を使用した後、どのように端末を保管しているのでしょうか。

事務局

学校では、各教室に充電保管庫が設置されており、基本的には、児童生徒は、登校後その充電保管庫から、端末を取り出して自分の手元に置いて使用し、下校時には、再び充電保管庫に入れていきます。自分の手元に置いておく時には、机の中では不安定ということもあり、多くの学校では端末を手さげ袋に入れて、机の横にかけているという運用をしています。使いたいときにいつでも気軽に使える状態にしているということです。

上田委員

1学期中に端末に関して、授業中に止まることのあるなどのトラブルはありましたか。

事務局

10台を超える端末でカメラ機能の使用ができないということがありました。また、充電保管庫の中での端末の充電ができなかったという端末が数台ありました。

上田委員

低学年での端末の使用については、何人体制で授業を行っていますか。

事務局

I C T支援員や低学年支援員がサポートすることもあります。基本的には、担任教諭1名で授業を行っています。低学年の児童には、端末のすべての機能を使っていくということが難しいため、カメラ機能など比較的簡単に使用できるものから使用していき、徐々に使うものを増やしていきたいと考えています。

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

上田委員	特別支援学級に在籍する児童生徒への対応はどのようにされていますか。
事務局	個々の能力に合わせた対応ということにはできていませんが、通常学級よりも児童生徒1人に対してフォローできる体制となっていますので、端末の使用方法などで行き詰っているといったことはありませんでした。
村上委員	この端末は少し重さがあり、児童生徒が外に持ち出す場合には、落としてしまうなどのリスクがあると思いますが、これまで学校で使用しているような、肩から下げるバインダーのようなものを配備することは難しいのでしょうか。
事務局	端末を持ち出す場合には落としてしまうなどのリスクは考えられます。この端末の外装面は、ミル規格という非常に衝撃に強い端末であるということも採用した理由の一つであります。ただし、液晶面は非常に衝撃に弱いので、1学期中にあった端末の破損ということになっています。現在のところ、教室内で使用することを主としていますが、持ち出し用のバックなどを配備することについては、今後、端末の活用が進み、持ち出しの機会が多くなり、その使用方法などを考えていく上で検討していきたいと思えます。
桂田委員	5年後に端末の更新を想定しており、その際には多くの費用も必要になるということですが、そのための財源はどのように考えていますか。
事務局	5年後に端末の更新を想定している理由は、端末のバッテリーの寿命を考慮し、メーカーが更新を推奨しているということです。更新に必要な費用は、今回の端末の購入費用が1台あたり約45千円ということで、この単価ですべての児童生徒が使用する端末を更新すれば約1億円ということになります。現在配備している端末は、国の補助金を受けて配備できていますので、更新に向けて国に財源を支援するよう要望していきたいと思えます。端末の更新に対する思いは全国の自治体が同じように考えていると思えます。また、本市独自で取り組むこととしては、これまで、各学校のパソコン教室に限られた台数で配備したパソコンを定期的に更新し、児童生徒のICT学習を行ってききましたが、今後、児童生徒1人1台端末を配備したことで、パソコン教室のパソコンを更新せず、児童生徒1人1台端末に移行させ、これまで計画的に更新してきたパソコン教室のパソコン更新費用を充てることを検討しています。
市長	おそらく、全国から国に対して、端末の更新に向けた要望が上がってくると思えます。先日、世耕経済産業大臣の講演に参加したことがありまし

窪田教育長

たが、その中で、児童生徒1人1台端末の更新費用も検討しているということでしたので、何らかの手立ては講じていただけると期待しています。

児童生徒1人1台端末の機種選定にあたっては、学校で使用することを念頭に検討を重ね、グーグル社の端末を整備することにしました。マイクロソフト社やアップル社の端末を整備した自治体もありますが、本市では、持ち運びの点で、重量が軽いという利点があるものは逆に壊れやすいというデメリットがあり、重量はありますが、耐久性に優れているということ、また、端末の使用に必要な様々なアプリケーションをインターネットにより起動させる形式であることから、起動時および使用時の処理速度が格段に速いという点を重視して今回の機種を選定しました。学習支援ソフトについては、自治体によっては、今回の端末整備に有償ソフトを搭載させているところもありますが、本市では、現在、基本ソフト以外は搭載していません。有効な基本ソフトもたくさん備わっていますので、まずはこれらを使って学習を進めていき、体験版ソフトなどを試験導入することも計画しています。その実践と検証を踏まえ、必要なソフトの導入を考えていきたいと思えます。また、ソフトの導入により、これまでの印刷された学習補助教材に代わることができ、かつ費用も抑えることができれば、これまでと同様に保護者の負担としてソフトを導入していくこともできるのではないかと思います。

山崎職務代理者 福井県は全国的に見て児童生徒1人1台端末の整備は進んでいるのでしょうか。

事務局 全国一斉に整備できていると思います。高等学校で遅れているところがあると思いますが、福井県は整備できています。

窪田教育長 数年後には、全国学力調査をタブレットを使って回答していくということが言われていますし、また、コロナ感染状況が拡大する中、県からは、学校が休業になることに備えてオンライン学習の準備をすることも通達されています。

桂田委員 予備機はどの程度あるのでしょうか。

事務局 各学校で2台程度の予備機で対応しています。端末が故障した場合には、一旦予備機を使って代用しますが、端末の修理が完了すれば、元に戻すことができます。1学期中では2台の端末が破損するという程度で収まっていますので、現状で対応できています。

市長 今後の状況を見て、必要な予算化も考えていかなければならないと思えます。

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

上田委員 事務局	<p>この端末は、定期的なメンテナンスは必要なのでしょうか。</p> <p>メンテナンスは不要と考えています。故障などが無い限り使用できるものと考えています。故障への対応ですが、他の市町では、端末に動産保険を掛けているところもあり、端末1台あたりの動産保険料が年額2千円程度と聞いており、本市のすべての端末に保険料を掛けた場合に4,000千円程度の予算が必要になります。現在の状況では、故障した端末を都度修理していくことになると思いますが、今後、端末の使用範囲が広がり、破損するリスクが高まることも考えられますので、状況を踏まえて検討していきたいと思っています。</p>
窪田教育長	<p>社会のデジタル化が加速度的に進んでいますので、子どもたちが大人になったときに、現在では想像できないようなさらに進んだ社会となっていると思います。児童生徒が1人1台端末を使って、資質・能力をどのように育てていくのかということは大きな課題であり、ICTの有効活用は避けて通れない重要な教育課題です。その中で、指導にあたる教員自身のICTにかかる資質・能力も非常にこれから問われてくると思います。このためにも研修の充実もしっかりと図ってまいりたいと思います。</p>
市長	<p>ほかに、ご意見などはございませんか。</p> <p>ないようですので、一つ目の協議事項は、ここまでとさせていただきます。</p>
市長	<p>それでは次に協議事項2 学校教育の諸事業に対する支援体制の整備について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><教育総務課説明></p>
市長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、これについて意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。</p>
桂田委員 事務局	<p>所管する基金をこれまでどのように使用してきたのでしょうか。</p> <p>小浜市教育施設等整備基金ですが、この基金は、学校施設の改築などの整備に向けて、その資金を計画的に積立てていくことを目的として設置したもので、小浜小学校の改築や小浜美郷小学校の建設時に活用してきました。現在、4,000千円程度の基金残高がありますが、この基金残高のほとんどが、小浜美郷小学校の施設整備や備品整備などのために受入れた</p>

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

寄付金ですので、小中学校へ使用することができる資金は1,000千円程度となっています。

小・中学校教育機器整備基金ですが、学校の教材の整備にこれまで年間800千円を使用し続けてきましたが、令和4年度で残高が無くなる見込みです。

三宅茂子基金ですが、学校の図書備品などを中心に教材の整備にこれまで年間400千円から800千円を使用し続けてきましたが、令和4年度で残高が無くなる見込みです。

窪田教育長

本市の学校図書館はこれまで非常に良い状況で整備できてきましたが、これは基金を活用してやってこれたということです。来年度以降は基金が無くなる見通しであり、これからの子どもたちの学習活動の充実を図っていく上で大きな課題であると認識しています。

村上委員

今後の学校改修ではどのようなことが予定されているのでしょうか。

事務局

これまで大規模な補修にかかるものにも対応してきましたが、学校のトイレの洋式化工事や体育館照明のLED化工事を行っています。今後は、現在計画している学校施設の長寿命化計画に基づく、施設の長寿命化を図る施設改修を予定しています。

市長

学校のトイレの洋式化の進捗状況はどうなっていますか。

事務局

今月中に完了する予定です。

上田委員

障がい者用トイレの整備状況はどのようになっていますか。

事務局

小浜小学校や小浜美郷小学校のような新設した学校には多目的トイレなどを設置していますが、それ以外の学校でも多目的トイレまでは整備できていませんが、手すりやスロープを設置するなどの改修はしています。

上田委員

県立高校の入試の際に車いすの受験生などに向けて、昇降機などの整備をしていました。

事務局

新設した学校施設では、エレベーターが設置されています。それ以外の学校で既存施設に装備するということはなかなか難しいと考えますが、今後の学校施設の改修時には、装備することを考えていかなければならないと思います。

窪田教育長

先ほどの事務局の説明にありました学校教育予算の実情は、本市だけに限らず全国の多くの自治体が抱える問題であると思います。このような中で、効果的な取り組みをしている自治体の事例を紹介してください。

事務局

今回提案しました支援を求める体制づくりのヒントになりましたのは、熊本県の自治体の取組事例を参考にしました。この自治体では、学校教育

の各種事業に対して、市内の応援の輪を広げていこうということで、支援体制を整備し、呼び掛けたところ、地元の企業や卒業生一同、OB会など、毎年、様々な団体などから寄附の申出を受けることが出来ているというものです。申出を受けた寄附金は、用途を限定していることはなく、小中学校の教育に対して広く使用できる仕組みとなっており、市の教育費予算の中で持続可能な対応が難しいものに役立てているというものでした。

本市でも、教育に関して寄附をしようとする申し出も現在あることから、この機会に、広く市内にこのような輪を広げていきたいということで今回の案を作ってみました。

上田委員

支援者の支援を求める事業への参画という提案がありますが、これまでの寄附金を受け入れた際に、寄附者から具体的に事業への参画などの申出などはあったのでしょうか。

事務局

提案した内容は、これまで取り組んだことのない初めての試みであり、具体的に声が上がったというものではありません。これまでの基金を使った教材整備では、納入した教材に名入れなどは行ってきましたが、納品に立ち会うなど実際に現場に来ていただくことはしていませんでした。今回、提案にあるような参画をしていただくことで、実感をしていただき、支援を続けていただくことや口コミで支援をしていただける方を広げていくなどにつなげていければと思っています。

市長

寄附をしようとする方が寄附をしやすいシステムを作るということですね。例えばクラウドファンディングのような手法も含め寄附の方法や支援を求めているものを分かりやすくしておくということですね。寄附をしたいという声も聞いていますが、その場合、誰に何をすればよいのかという問い合わせがありますが、あらかじめ明確にしておくと思えば受け入れやすくなると思います。

桂田委員

この提案を実行する場合には、どのようなPRを行おうと考えていますか。

事務局

応援を求めたいものについて、期間、求める額を決めて寄附を募る場合には、クラウドファンディングの手法により、市の広報誌に掲載することのほか、SNSやホームページを使ってリアルタイムに寄附の状況などを見えるようにしていくことを考えています。教育費の予算の一部に応援を求める場合には、一般の寄附を募ることになり、今後、新たな基金の創設も検討していますが、この新たな基金を創設したことを広くPRしていきたいと考えています。

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

桂田委員	具体的にどの程度の予算を確保しようと考えていますか。
事務局	令和3年度当初予算の学校教育費に充当した一般財源額の範囲で寄付金をいただければ、例年並みの事業を継続して実施していきたいと思えますし、更に多くいただけるようであれば、拡充して実施できると考えます。
市長	現在本市で取り組んでいるふるさと納税制度ですが、使途を教育にと明示されているものはありますか。
事務局	使途を明確にしていないものが多い状況ですが、額面では少ないが、中には教育と明示されているものもあります。結果的には一般財源として取り扱いますので、教育費予算に必要な一般財源の一部に充てています。
市長	クラウドファンディングのように、具体的な使途を明確にして資金を募る手法であれば確実に実施したい事業に充てることができると思います。
事務局	現在本市では、3つ事業でクラウドファンディングに取り組んでいますが、共感が得られるような見せ方の工夫をすれば、応じていただける方が出てくるのではないかと思います。
窪田教育長	教育の水準を維持していくための財源確保のため、クラウドファンディングをはじめ様々な手法があると思いますが、この機会を通じて本市の教育の取り組みを積極的に広くPRしていきたいと思えます。また、学校では、本市の子どもたちにといいことのできた資金であるという意識を高めて取り組むことができると思えます。財源の確保とともに教員の意識や資質の高まりにつながっていくことが期待できると思えます。そのためにも、継続して支援を受けられるような持続可能な仕組みづくりが必要であると思えます。
桂田委員	熊本県の自治体の例が挙げられましたが、その中で卒業生一同などの団体が寄付する取り決めのようなものがあるのでしょうか。
事務局	卒業生が必ず寄付するという取り決めはありません。市民に対して広く応援をいただきたいという呼びかけに対して、賛同をいただいた方の中にたまたま卒業生がおられたというものです。そのように自然な形で賛同を得られるような状況になれば、持続可能な取り組みになれるのではないかと思います。
市長	クラウドファンディングをはじめ、様々な手法により、応援を募るといふ方向性でありますので、ご協力のほどよろしくお願いします。
市長	ほかに、ご意見などございませんか。 ないようですので、これをもちまして令和3年度第1回小浜市総合教育

令和3年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

会議を終了します。長時間にわたりありがとうございました。